

一般会計予算審査特別委員会から分担された部分を審査するため、3月9日に総務生活分科会を開催しました。

## 議案第33号 平成30年度総社市一般会計予算

### ～結果～

次のような審査の結果、本分科会に分担された部分については、全員一致で**原案を可決**すべきであると取りまとめることに決定。

### ～質疑～

**問：雪舟生誕地公園の設計案は業者に任せるのか。**

答：業者にすべて任せるのではなく、平成29年度から地元の方と会合を開き意見を聞いているので、今後協議しながら進めていきたい。

**問：時間外勤務手当について、節約や健康管理の面からももっと減らしていくべきではないか。**

答：管理職が部下の労務管理の徹底を図り、また、職員から事務改善事項を公募しバランスの取れた事務量になるよう事務の見直しを行うなど、できるだけ削減していこうと考えている。いろいろな事業を展開していく中で支障が生じないよう、職員数を増やす計画も立てており、適正な職員数を確保していく。人材育成の部署による実務研修など職員のスキルアップも時間外勤務の削減につながるので力を入れていきたい。

**問：被災地支援について2千万円の予算が計上されている。被災者受入れと支援がそれぞれ1千万円ずつだが、どちらにも流用する予定なのか。**

答：別々の予算と考えており、流用する予定はない。

**問：職員に運転業務など過度の負担がかかるような支援を行っていないか。**

答：支援に行った職員の意見も尊重し、人数を増やすなどできる限り職員の負担が軽減するように努めながら支援を続けていきたい。

**問：雪舟くんの運行前後で公共交通にかかる経費はどう変わったか。**

答：運行を始めて数年はおおむね下回るか同じくらいで推移していた。現在は、オペレータの安定雇用やバスの補助金の増加などによりいくらか導入前より多くかかっているが、持続可能な運営が必要なので工夫を重ねていきたい。

**問：トラックのラッピング広告費を計上しているが、どの様なトラックが対象で何台分計上しているか。またどのようなデザインを考えているか。**

答：首都圏などに定期的に長距離を運行している大型トラックの背面へのラッピングを想定している。対象業者については、今後岡山県トラック協会総社支部と相談をする予定である。1台20万円として10台分計上しておりデザインは2台ずつ5種類と考えている。国分寺などの総社市の代表的な観光地の写真を中心にしたようなデザインを産官学で協力し考えていきたい。

**問：企画費の住宅補助金は家を建てた方に支払うのか、地元の業者に支払うのか。また、過去に地元業者による施工はどのくらいあったか。**

答：補助金は家を建てるご本人への交付である。平成 28 年度、昭和地区を除く新築件数は 354 件で、そのうち市内業者によるものは 38 件である。住宅メーカーの下請けではなく、直接請負契約を結んだものが対象である。

**問：自治体クラウドについて、自然災害によって庁舎が被災する前に外部へお願いするののか。**

答：すでに基幹系といわれる住基や税のシステムについては、システム本体は市役所の庁舎にあるが、システムを含めたデータは岡山県内のデータセンターへ保存している。また、市役所庁舎内で職員が使っているファイルなどのバックアップは消防庁舎で取っている。

**問：自由枠交付金について、増やしていくということだが内訳はどうか。**

答：自由枠の中に地域力アップ加算金として 1 団体当たり 20 万の加算金を 17 協議会で合計 340 万と試算をしている。また、自主防災の組織化に対して、1 世帯当たり 400 円を加算数に乗じて交付している。

**問：日本語教育事業で、日本語教室への参加者はどれくらいいるのか。**

答：日本語教室は、年に 30 回行っている。平成 28 年度は 82 名登録しており、延べ 521 人参加いただいた。日本語教室は文化庁の委託事業で、生活者のためという位置づけになっており大人が対象である。現在子どもたちの参加はないが、補助事業が終わった後は子どもの参加もできるように考えていきたい。

**問：救急救命士の講座を設けているが、除細動機（AED）を使っの講習などには年間どれくらいの方が参加するののか。**

答：1 年に 70 回程度講習を行っており、延べ年間約 2 千名程度の方が参加している。救急法と普通救命講習等があるが、1 年に 1 回受講が義務付けられている施設もある。

**問：ランドデザインによる開発に伴う県大周りの人口増や施設の集客により、将来的に消防署の数や人員はたりるののか。**

答：消防署の施設や車両や人員は、国が定める消防力の整備指針に基づいて整備している。総社市の高梁川から東が本署管轄になっており、市街化人口が 4 万人で 2 箇所必要であるが、現在の市街地人口は約 3 万 8 千人である。今後市街化人口が増えるようであれば、当然考えていかなければならない。

**問：備蓄品はいつまでも持たないが、賞味期限が近づいたらどう対応しているか。**

答：期限が切れる 1 年前くらいから、出前講座や市の防災訓練で市民に配布している。

**問：大きな備蓄倉庫は何箇所あるか。**

答：ときわ公園、総社中学校の 2 箇所と、今年度は池田小学校、昭和中学校、維新小学校へも新たに備蓄した。3 月末に新本小学校に備蓄していく予定である。いま総社小学校は建て替えしているので協議が必要だと思うが、各小中学校は基幹となる避難所なので最終的にはすべてに分散備蓄できるのが望ましい。少しずつ広げていきたい。